



## ① [ステージイベント]

## ◇中学校・高等学校 音楽系クラブによる演奏

関西圏の中学校・高等学校の有名音楽系クラブの方々に、各クラブ 15 分程で 2~3 曲を演奏・合唱していただきました。



## ◇フィリピンの現地状況の説明

AWPS の支援先団体である、フィリピンマニラの NGO カンルンガン・サ・エルマの活動や、現地のストリートチルドレンの現状を弊団体学生スタッフの岸美咲帆より紹介いたしました。

## ◇AWPS 学生スタッフチームの活動について

AWPS 学生スタッフチームの活動について弊団体の代表である藤澤憲人よりスライドを使って説明させていただきました。また、最後には NGO のソーシャルワーカーを体験する目的で、2010 年 3 月に渡比した高校生 2 名から渡航体験談を発表いたしました。



## ◇「あなたにとって家族とはどんな存在ですか？」作文朗読

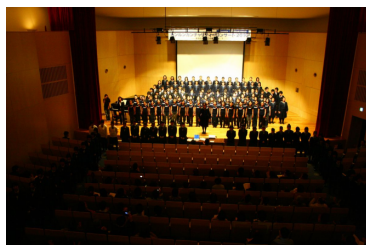
甲南小学校の 5 年生を対象にフィリピンのストリートチルドレンの現状を伝える目的で授業を行いました。その後、「あなたにとって家族とはどんな存在ですか？」というタイトルで作文を書いてもらいました。

そして、星野蒼生君と平井理紗子さんの 2 名が甲南小学校を代表し、コンサート当日作文を朗読。心のこもった作文朗読に多くの人から『感動した』とのコメントを頂戴しました。



## ◇テーマソングの合唱

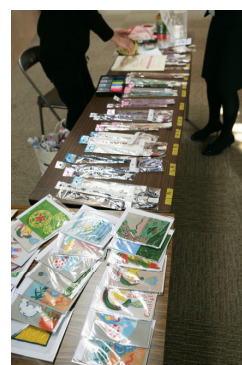
出演校の参加者全員で本コンサートのテーマソングである「世界がひとつになるまで」を合唱。迫力のあるテーマソング合唱となりました。



## ② [ロビーイベント]

## ◇元ストリートチルドレン自立支援グッズプロモーション

カンルンガンで生活する、元ストリートチルドレンたちが作った、ミサンガ、ポストカード、ピアスを紹介。また、ご来場者の強いご要望があったため、販売も行いました。



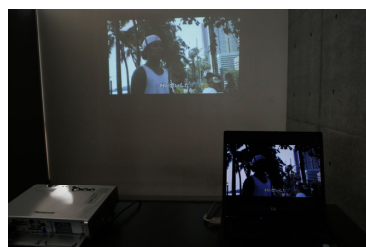
## ◇チャリティードリンクプロモーション

通常よりも安くドリンクを販売しながら、その値段にはチャリティー基金を上乗せしてあるため、購入すること自体がカンルンガンへの支援に繋がるといふ、チャリティードリンクのプロモーション販売を行いました。

(協力：アサヒカルピスビバレッジ株式会社)

## ◇ストリートチルドレンドキュメンタリー作品の上映・写真パネル展示

弊団体のスタッフと日本大学芸術学部の学生が共同で制作したストリートチルドレンドキュメンタリー作品を上映しました。また、スタディーツアー等でスタッフが渡比した際に撮影した写真の中から、いくつかをパネルとしてロビーに展示しました。



## ◇「あなたにとっての家族とは？」写真撮影・メッセージ記入

ポラロイドカメラで来場者の方を撮影し、その写真の下に「あなたにとって家族とはどんな存在ですか？」という質問に対する答えを書いてもらいました。たくさんの心温まるコメントがありました。



## ◇募金活動

各ブースに募金箱を設置しました。また、閉演後、スタッフが手に募金箱を持ってカンルンガンへの支援を呼びかけたところ、大勢の方から温かいご支援を頂きました。

Ⅲ、総括

今回、カンルンガンチャリティーコンサートを開催するにあたり、様々な団体、学校、企業の方々から多大なご支援・ご協力を賜りました。今年は2回目の開催ということで昨年のコンサートよりも盛大なものにするためにスタッフ一同が一丸となって準備を進めました。今回のチャリティーコンサートでは、すべての出演校に事前に学生スタッフが訪問し、各校でフィリピンのストリートチルドレンの現状を伝えるインフォーム事業を実施しました。各学校の出演者の方々からは、「事前にストリートチルドレンの現状について知ることができたので、いつも以上に気持ちを込めて演奏することができた」などの感想をお寄せいただきました。また、立命館守山高等学校の吹奏楽部の皆さんには、コンサート1週間前の定期演奏会でも、当チャリティーコンサートの告知・募金の呼びかけにご協力を頂きました。

コンサート当日は、天候にも恵まれ、昨年同様200名を超える方にご来場いただきました。今回のチャリティーコンサートのテーマは、「あなたにとっての家族とは…?」。多くの学生スタッフがフィリピンのストリートで暮らす家族に出会い、彼らから日本の家族からは感じにくい温かさを感じました。「貧しくてもストリートで身を寄せ合って暮らしている彼らの温かさを日本の皆さんに伝えたい」。そんな思いからこのテーマに決定しまし

た。閉演後、ご来場の方々からは、「家族を大切にしようと思った」や「フィリピンの現状を初めて聞いて、自分も何かしなければならなかった」などたくさんの感想を頂戴しました。特に、甲南小学校の児童による作文朗読は、家族の存在を改めて考え直すきっかけとなるような内容で、多くの方から「感動した」とのお言葉を頂きました。

ご来場の皆様の感想から、本事業の開催目的である『より多くの人にフィリピンのストリートチルドレンがおかれている状況を伝える』という目的が達成できたものと自負しております。また、ご来場の方々だけでなく、出演校の皆様や弊団体のスタッフも改めて「家族」について考え直すことができるコンサートになりました。

しかし、今年は準備不足な点が多々あり、出演校の皆さんや顧問の先生方に多大なご迷惑をおかけしました。来年、コンサートを開催するにあたっては、今回の反省点を十分に活かし、もっと成長・発展した AWPS 学生スタッフチームをお見せできるようにスタッフ一同頑張っております。

最後になりましたが、ご協賛をいただきました方々をはじめとする、関係各所の皆様には多大なご迷惑をおかけしたことをお詫びし、同時に多大なご協力を賜りましたことに厚く御礼申し上げます、カンルンガンチャリティーコンサート 2010 の開催報告とさせていただきます。

カンルンガンチャリティーコンサート 2010

実行委員長 平位 莉紗

実行委員会スタッフ一同